

2018年4月15日(日)

英会話道場イングリッシュヒルズ  
文書教材

## 理性性の一形態としての「収斂」(astringency)

生井利幸

本稿では、理性性の一形態としての概念である「収斂」について、学習者に対して、わかりやすいロジックで解説・展開していきます。

「収斂」(astringency)とは、様々な学問分野で使われる概念ですが、通常は、「多くのものが、一つにまとまる」という意味で使われる概念です。

通常、人は、自分の「欲」(greed)を満たそうとして、一度に、または、同時期に、たくさんの方に手を出そうとします。無論、人が成長していく上で経験は必要ですが、欲を出してたくさんの方に手を出すと、結局、すべてが中途半端となり、何ら、自分のものになることはありません。

このことについて勉強に関係づけて述べると、欲を出して短期間のうちにたくさんの方の知識を身に付けようとし、“非理性的に”あれもこれもと暗記しようとする人は、「結局、すべてが薄っぺらい知識の断片となり、何ら、習得することはできない」という皮肉な結果を招くということです。

本質論を述べるならば、通常人が備える能力ではなく、通常人にはない「特別な（特殊な）能力」を身に付けるには、普通の人々と同じような方法（典型）で勉強するだけでは、自分が望むような「特別な能力」が身に付くことはないでしょう。

言及するには及びませんが、この世の中に、“タダ”で手に入るものはありません。何かを身に付けるのは、必ず、代償(price)が必要となります。

**Nothing is free in this human society.**

**If you wish to get something important, you've got to pay the price for it.**

これは即ち、「人間社会においてタダというものはない。もし、あなたが、あなたにとって何らかの重要なものを手に入れたいならば、それ相当の対価（代償）を払わなければならない」という意味を成します。

対価（代償）の意味は、固定観念の中に生きている人には、それを理解することは難しいでしょう。例えば、「特別な能力を養いたい。でも、普通の人々が持っている普通の幸せも欲しい」という願望は、一般社会では頻繁に耳にする願望です。しかし、この願望は、実際のところ、「叶わない願望」であると言わざるを得ません。

特別な能力を養いたいにもかかわらず、普通の人々と同じような着想・発想の下で勉強しているのでは、残念ですが、いつまでたっても「普通」の枠組みから出ることはできません。

「特別な能力」を養いたいならば、“極めて特別な方法”で、「限界の限界」まで自分を追い込んで勉強しないと、自分が望むような「特別な能力」を養うことは不可能です。

海外でも日本でも、自己実現ができる人の共通点は、「事物における対価・代償の意味」について達観している人です。これをわかりやすく述べると、対価とは、自分にとって本当に必要なことを行うために、「不必要と思われる雑多なことに手を出さない」ということです。

賢者は、「一つに絞る」重要性を達観している人です。勇気を持って一つに絞ると、実は、やがて、一つだけでなく、たくさんのが手に入ります。収斂の概念に潜んでいる英知は、「的を一つに絞ると、やがて、多くを得る」という、特定の文明・文化を超越した英知であると明言することができます。